

題材名 手伝いをしよう

ねらい ・家庭での手伝いを考え、実践することを通して、働く習慣を身に付ける。

段階	学習活動	時間	支援及び指導上の留意点
<p>※手伝いの内容については、事前に家庭へ連絡を取り、実施可能な手伝いをいくつか挙げてもらっておく。</p>			
導入	<ul style="list-style-type: none"> 家で手伝いをしているか、どんなことをしているかワークシート①に記入する。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> 手伝いをしている生徒に、どんな手伝いか発表してもらおう。「靴を並べる」「新聞を取りに行く」など、簡単な内容の手伝いが挙げられても否定しない。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 手伝いのイメージを考える。 学級での仕事や委員会の仕事をワークシート②に記入する。 学級や家庭での仕事は、誰のためにやっているのかを考えて、ワークシート③に記入する。 手伝いをすると、家族はどんな気持ちになるか考える。また、家族から感謝の気持ちを伝えられると、自分はどんな気持ちになるかを考えて、ワークシート④に記入する。 高等部生として、過去の手伝いよりもバージョンアップした（解説シートを参照）、家族の役に立ち、感謝されるような手伝いを考え、ワークシート⑤に記入する。 	25分	<ul style="list-style-type: none"> 「面倒だ」「嫌だ」「やりたくない」などのマイナスイメージの意見も否定せずに受け止める。 思い浮かばない生徒には、「日直の仕事や給食当番、掃除も仕事の一つ」ということを伝える。 「学級の仕事」＝「みんなのため」。みんなが仕事をしてくれるおかげで、おいしい給食が食べられたり、教室がきれいになったりしていることを話し、感謝の気持ちを伝える 「家庭の手伝い」＝「家族のため」。家族の一員として仕事をするすることで、部屋がきれいになったりご飯が食べられたりする。ほめられたり感謝されたりしたときのうれしかった気持ちを引き出す。 手伝いの内容は、できるだけ自分で考えられるようにする。それぞれの家庭によってできる手伝いは違うので、事前に家庭より挙げてもらった内容になるよう配慮する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの手伝いを発表する。 	15分	<ul style="list-style-type: none"> 手伝いの内容を聞きながらお互いを応援し、意欲につなげる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><言葉かけの例> 「〇〇さんは、食器洗いとご飯研ぎをするそうです。頑張らないと朝ご飯が無くなっちゃう重要な仕事ですね。頑張ってください！！（拍手）」</p> </div>